学校番号	1207

令和　５　年度　　指導と評価の年間計画

教科	科目（講座名）	単位数	指導学年	履修の条件
数　学	数学Ⅱ（　数学Ⅱα　）	２	３	数学Ⅰ履修後

使用教科書	副読本等
「新　高校の数学Ⅱ」（数研出版）	「新高校の数学対応　教科書学習ノート数学Ⅱ」（数研出版）

準備物・費用等	必修／選択	全員履修	セット	自由選択	授業形態	講義	実技	実習
必要があればその都度連絡します			○			○		

１．担当者からのメッセージ（学習方法等）

生徒の学習に応じて教科書の内容を精選し、講義と問題演習を反復しながら基礎学力の充実を図る。また、補助プリントなどを適宜作成し、理解を深めるとともに、計算力の向上を目指す。

２．学習の到達目標

式と証明、高次方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数、対数関数、微分法、積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。

３．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	ａ：関心・意欲・態度	ｂ：数学的な見方や考え方	ｃ：数学的な技能	ｄ：知識・理解
観点の趣旨	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業に対する態度や提出物の状況によって評価する。	提出物に関して、毎回の授業で集めチェックしている。	定期考査を通し判断する。また授業に復習の計算を入れることでも評価する。	毎回の授業で集める提出物 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 ～ 5月 中旬	式と証明	展開の公式 因数分解 整数の乗法、除法と分数式	○ ○ ○	 ○	 ○	○ ○ ○	a,様々な公式について興味を持ち、意図的に理解しようとする。 b,整式の割り算が行える。 c,分数式の約分や通分や分数式の四則計算が自由に行える。 d,三次の乗法公式や因数分解の公式を用いることが出来る。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
5月 下旬 ～ 7月	複素数と方程式	複素数の計算 ２次方程式の解と判別式	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a,複素数という新たな数に興味を持ち、意図的に理解しようとする。 b,複素数の計算を行うことが出来る。 c,判別式を用い、２次方程式の複素数解を求めることができる。 d,実数と虚数の違いを理解している。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
8月 下旬 ～ 10月 上旬	点と直線	２点間の距離 内分点と外分点	○ ○	○ 	 ○	○ ○	a,様々な点や直線に興味をもｐち、その関係を理解しようとする。 b,２点間の距離を求めることができ、平面図形に応用できる。 c,内分点や外分点と座標の関係の理解を深め、平面図形の性質や関係を調べることができる。 d,点と直線の関係を理解している。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
10月 中旬 ～ 12月	点と直線 円	直線の方程式 円の方程式 円と直線	○ ○ ○	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a,直線や円について興味を持ち、計算し求めようとする。 b,直線の方程式など図形と方程式の関係を理解し求めることが出来る。 c,円と直線の位置関係を二次方程式の判別式によって調べることが出来る。 d,直線や円を条件を満たす点の集合と理解している。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
1月 ～ 2月	三角関数	三角比 加法定理	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a.一般角及び弧度法に興味を持ち、意図的に探求しようとする。 b.三角関数のグラフの特徴を理解し、周期性や対象性に気付くことができる。 c.三角関数の加法定理を理解し、様々な三角関数の値を求めることが出来る。 d,相互関係の公式を用い三角関数についての理解を深める。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況